

【特別調査報告】
鯖江本山誠照寺史料

小 山 正 文
小 島 惠 昭
渡 辺 信 和
青 木 馨
安 藤 弥
松 金 直 美
飯 田 真 宏
藤 村 潔

解題

一、はじめに

鯖江本山誠照寺は、福井県鯖江市に所在する真宗誠照寺派の本山寺院である。浄土真宗の越前四箇本山の一つに数えられ、越前真宗の由緒寺院として著名であり、その歴史の実態の解明は、真宗史研究をはじめ、さらに多方面において大きな意義を有するものである。

誠照寺の歴史については、すでに『誠照寺史要』^①や『誠照寺史』^②などの通史的な叙述がある。また、『鯖江市史』^③や『福井県史』^④などの自治体史においても中世の越前真宗の歴史的展開を中心に言及されている。郷土史的な言及も多く、知名度は高い。しかし、いまだ誠照寺の歴史の全容解明にはいたっていない。その理由の大きな一つとして、誠照寺に所蔵される歴史資料（以下「誠照寺史料」とする）の全容が、これまで明らかにされてこなかったことが挙げられる。

誠照寺史料については、すでに本願寺史料研究所^⑤や東京大学史料編纂所の調査があり、それぞれ中世文書の存在を中心に確認されている。史料集としては、『真宗史料集成』第四卷^⑥において「誠照寺文書」として一一通が紹介された。また、福井県史の調査では四一点の史料が調査さ

れ、資料編には慶長期までの一七点と近世の二点が収録された。^⑤鯖江市史では福井県史の調査に基づき、資料編に二二点が採録されている。^⑩

ところで、誠照寺と派内主要寺院の法宝物史料については、『真宗誠照寺派の宝物』展の図録において多く紹介された。この図録ではテーマの性格上、文書に焦点は当たっていないが、その一方で調度品も含めた貴重な実物資料の多くの存在が確認されることになった。

以上が先行する主な調査・史料紹介等であり、これまでも、中世文書を中心に、それなりの把握はなされてきているといえることはできる。しかしながら、誠照寺には中世のみならず近世・近代にいたるまで、さらに多くの文献史料が所蔵されており、その情報量は膨大である。これらの整理・把握が大きな基礎作業的課題として意識される。

このたび、縁あって同朋大学仏教文化研究所が誠照寺史料を網羅的に調査する機会を得た。ご許可いただいた本山誠照寺の皆様には心より感謝申し上げる。全四回にわたる史料調査の結果、その大概を把握することができたので、ここに調査報告を行うものである。

二、誠照寺略史

まず、誠照寺の歴史について、すでに知られている内容をふまえて略述し、理解の一助としたい。

誠照寺のはじまりを物語る伝承は、次のとおりである。

浄土真宗の宗祖親鸞（一一七三―一二六二）は建永二年（一二〇七）、専修念仏禁止により、師法然とともに流罪に処せられた。流罪先の越後に向かう途中で越前国鯖江まで来たとき、地元の豪族波多野景之が親鸞を迎えて一族とともに教えを聞いた。景之は親鸞の弟子となって空然と称し、親鸞を見送った後、親鸞の滞在したところを専修念仏の道場とした。これを世に「車の道場」といい、誠照寺のはじまりとなった。なお、この際に親鸞が都より背負って持ち来たった阿弥陀坐像が形見として残された（現在のの上野別堂の本尊とされる）。その後、波多野景之は帰洛した親鸞に対して、その息益方を養子に願ひ、鯖江に迎え入れられた益方は法名道性を名のり、「車の道場」を相続したという。

以上は現在の研究においては、あくまで伝承という位置付けになるが、後世の誠照寺とその門徒集団が宗祖親鸞を慕ひ、語り継いできた内容として、大切にすべきものである。

誠照寺の前提となる越前真宗は、関東から三河へと展開し、さらに奥美濃の山間ルートを通じて越前へといった親鸞門弟集団に、その始原

が求められる。応長元年（一三一）越前国大町において如導が本願寺覚如から『教行信証』を伝授されている。この如導はもともと親鸞―真仏―専海―円善―如導と続く三河真宗系の法脈に連なっていた。如導の後、越前の真宗門流は拡散的に展開し、現在の誠照寺・證誠寺・專照寺の源流となる集団が形成されていく。この集団は「讃門徒」といわれ、親鸞の和讃を重視する特徴があった。そのなかで、如導の弟子道性と、道性の息男如覚により、誠照寺の礎が築かれたとされる。

寺号については、永享五年（一四三三）・同七年（一四三五）の年紀が記される文書に「真照寺」とあり、同九年（一四三七）・同十一年（一四三九）の文書になると「誠照寺」がみえる。これらの文書には古文書学的に研究の余地が残るものの、室町時代中期には一定の規模を持つ勢力であったことが推測される。その後も、文明三年（一四七一）連如の北陸進出によって伸長した本願寺勢力とは一線を画しながら展開したが、天正十一年（一五八三）羽柴秀吉の軍勢により焼失し、退転した。秀吉の還住安堵により同十七年（一五八九）に再興したが、門末の離散や確執があり、江戸時代初期にいたるまで混乱は続いた。

江戸時代の誠照寺は福井藩との関係を深め、また天台宗日光輪王寺の院家になり、社会的位置を確保した。明暦元年（一六五五）福井藩重臣太田資武の次男が入寺して第十五世秀誠となり、御影堂再建や儀式整備などの諸活動を行い、後に中興上人と称された。幕末には京都の公家西園寺寛季の末男が二條斎敬の猶子となって万延元年（一八六〇）に入寺

し、明治二年（一八六九）第二十六世秀源となっている。明治十一年（一八七八）には誠照寺を本山とする「真宗誠照寺派」として一派独立し、現在にいたる。

なお、文久二年（一八六二）火災により焼失した両堂は、明治維新期の苦境を乗り越えて、明治十年（一八七七）御影堂、同二十年（一八八七）阿弥陀堂の再建を果たしている。これが現在の誠照寺両堂である。

御影堂前の四足門は安永八年（一七七九）の再建で、文久の火災では焼失を免れたため、境内における最古の建造物である。弘化三年（一八四六）建立の鐘楼堂も文久の焼失を免れ、宝暦六年（一七五六）鑄造の洪鐘を吊るす。昭和八年（一九三三）には「車の道場」の復興として、誠照寺から南方八〇メートルほど離れた地に上野別堂が建立された。

誠照寺が地域に与えた影響は大きく、とくに鯖江の町は誠照寺の門前町として栄えてきた歴史が見出される。現在も寺と町が連携し合って、地域活性化の取り組みが進められており、注目される。

誠照寺の歴代は親鸞を第一世と数えて第二世道性、第三世如覚とはじまり、現在は第三十世二條秀瑞法主である。誠照寺では、平成二十三年（二〇一一）五月三日～五日、「念仏ひとつ すくいのまんなか」というテーマのもと、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が勤修される予定となっている。

【誠照寺歴代系図】

- 〔1〕 親鸞（1173～1262） — 〔2〕 道性（1207～1297） — 〔3〕 如覚（1250～1311） —
〔4〕 良覚（1296～1349） — 〔5〕 秀覚（1320～1380） — 〔6〕 秀雲（1350～1419） —
〔7〕 秀応（1399～1483） — 〔8〕 秀慶（1447～1525） — 〔9〕 秀栄（1489～1552） —
〔10〕 秀意（1542～1616） — 〔11〕 秀盛（1589～1616） — 〔12〕 秀顕（1560～1621） —
〔13〕 秀恵（1579～1627） — 〔14〕 秀山（1616～1663） — 〔15〕 秀誠（1642～1691） —
〔16〕 秀海（1664～1693） — 〔17〕 秀如（1675～1729） — 〔18〕 秀存（1697～1731） —
〔19〕 秀憲（1718～1743） — 〔20〕 秀実（1732～1806） — 〔21〕 秀芳（1765～1786） —
〔22〕 秀要（1788～1810） — 〔23〕 秀厳（1797～1812） — 〔24〕 秀観（1812～1843） —
〔25〕 秀量（1829～1891） — 〔26〕 秀源（1852～1935） — 〔27〕 秀暁（1879～1941） —
〔28〕 秀淳（1907～1986） — 〔29〕 秀政（1934～2001） — 〔30〕 秀瑞（1978～現在）

*（ ）内は生没年。典拠は『誠照寺史』など。

三、誠照寺史料

次に、今回の調査内容を中心に、誠照寺史料について述べる。

今回の調査では、寺内に保管されている古文書類と、両堂・宝物殿・経蔵に安置されている法宝物類を中心に調査した。調査の基本作業は、史料一点ずつの記録・採寸と写真撮影である。ただし、両堂に恒常的に安置されている本尊・真影・掛幅等は現存確認にとどめ、詳細調査はしていない。記録した史料約三五〇点について詳しくは後掲の目録を参照していただきたいが、先に概要を示せば次のとおりである。

(A) 法宝物類

宝物殿に安置されている法宝物を中心に調査し、一四点を記録した。誠照寺が所蔵する法宝物で第一に挙げられるのは「一尊十二光仏藕糸曼陀羅」と称される絵像本尊である。伝承では第三世如覚が嘉元三年（一三〇五）に参内して後二條天皇から真照寺の寺号・住持上人号とともに拝領したものである。初期真宗で用いられた本尊の一形態であるが、全体が刺繍によるものであることが非常に特異である。

第二に挙げる「髮繡六字名号」も全体が刺繍によるもので、同じく後二條天皇からの拝領という伝承がある。後の研究をまちたいが、刺繍による信仰表現は「女性と仏教」の視点から注目されている。女性門徒の関与が想起されよう。

第三に挙げる「紺地金泥十字名号」はまさしく初期真宗で用いられた名号本尊の一形態であり、歴史的にはこれが当初の本尊であった可能性も考えられる。

第四には「親鸞絵伝」を挙げたい。江戸時代の製作となる大きな四幅絵伝であり、基本的には通例の構成に従うが、三幅目の親鸞流罪で、鯖江の波多野景之邸に立ち寄る場面、四幅目で親鸞が茶毘に付された後、興で鯖江まで運ばれる（つまり、最後の廟堂は鯖江誠照寺となる）場面が付け加わっている。誠照寺本のみにもみられるオリジナルな場面としてたいへん興味深いものである。

また、彫刻類では、上野別院本尊として伝来する平安時代作とみられる阿弥陀如来坐像はもちろん、堂内の厨子に安置される室町時代作とみられる聖徳太子木像（十六歳孝養像）は注目すべきものである。経蔵内に安置される道性坐像、如覚坐像についても、江戸時代の作とみられるが、かなり大きなものであり、歴代木像として貴重である。

なお、今回の目録には記録しなかった掛軸類も何点かある。また、調度品等については後水尾天皇下賜とされる説相箱のみ目録に記し、その他は挙げていない。調度品については『真宗誠照寺派の宝物』展図録に掲載されていることを付記しておきたい。

(B) 典籍類

宝物殿に常置されている典籍類八点を調査した。第三世如覚が製作したと伝えられる『御文章』や、第十五世秀誠の製作という現行の『御文

「章」をはじめ、秀誠が太田家よりもたらした「閻浮檀金手引阿弥陀如来」の縁起など、「中興上人」秀誠に関する江戸時代中期のものが多い。秀誠による儀式整備などは誠照寺の歴史において重要な課題であろう。

また寛保三年（一七四三）には庭田重孝筆の『御伝鈔』が納められている。秀誠以降の誠照寺が、その由緒をもって京都の公家社会との関係を深めていることが、幕末の二條家猶子入寺の前提状況として知られる。

(C) 古文書類

宝物殿に常置されている文書類【0】と古文書函全六箱【1〜6】、ならびに便宜上「別置1〜8」と名付けた史料群を調査した。

（中世文書）十点ほどの中世の年紀を持つ文書が所蔵される。大きく分けて室町時代中期の土地寄進文書、戦国時代末期の朱印状・安堵状の類である。古文書学的には研究の余地があるとされており、今後の課題であるが、寺号の問題や政治権力との関係など、誠照寺にとっては重要な内容を含んでいる。

（近世文書）相当数の文書が所蔵される。その一部は『誠照寺史』でも用いられているが、なお未活用の文書が多数ある。江戸時代初期の文書については、末寺の離散や確執に関するものがあり、戦国時代以降の教団の苦難として捉えられやすいが、むしろこの時期に実質的な教団形成が促されている状況が読めるように思われる。江戸時代中期では「中興上人」秀誠に注目が集まるが、実際には前代の秀山より日光輪王寺門跡との関係や、寺内諸整備の動向について、注目すべき内容が見られる。

本末関係や申物・衣体・寺格などの諸規定が見え出すのがこの時期なのである。また、江戸時代を通じて朝廷、幕府、福井藩などとの関係を示す文書も確認される。江戸時代後期には本末関係の強化や動揺を示す文書もいくつかあり、いずれも本格的検討が課題である。

（近代文書）明治維新期から昭和の戦後にかけての文書等を概括的に把握した。明治新政府や皇室・華族社会との関係、門末へ発給した消息等を含む教団関係や戦時中の諸文書などがある。図面類のなかには地域史の史料として重要なものも含まれている。

四、おわりに

以上、鯖江本山誠照寺史料に関する特別調査報告をまとめてきた。今後すべき課題は、何よりも、これらの史料の詳細な解説から始まるが、複数確認された由緒書・縁起等の内容の批判的分析や、近世的教団形成に関する文書の本格的検討により、誠照寺史を含む真宗史研究の書き換えが見込まれる。また、地域史に関する史料も少なからず見出され、誠照寺史料は多方面から活用すべき歴史的価値がある。今後の研究進展を期す次第である。

註

- (1) 『誠照寺史要』(真宗誠照寺派本山誠照寺、一九〇九年)。
- (2) 『誠照寺史』(真宗誠照寺派本山誠照寺、一九六八年)。
- (3) 『福井県史』通史編2「中世」(一九九四年)。福井県公文書館のHP
においては、三九点のデータが確認できる。
- (4) 『鯖江市史』通史編上(一九九三年)。
- (5) たとえば、『鯖江郷土誌』(福井県鯖江市町、一九四九年)、『鯖江今昔』
(鯖江今昔刊行会、一九八一年)など。鯖江市の史跡紹介などでも必
ず紹介される。また、『福井県の地名』(日本歴史地名大系18、平凡
社、一九八一年)なども参考。
- (6) 本願寺史料研究所昭和三十年代後半調査。
- (7) 東京大学史料編纂所昭和五十五年(一九八〇)調査。
- (8) 同朋舎出版、一九八二年。同集成にはその他にも誠照寺関係文書一
通と、誠照寺派御文章が掲載されている。
- (9) 『福井県史』資料編五「中・近世3」(一九八五年)。
- (10) 『鯖江市史』史料編第三卷「諸家文書編Ⅱ」(一九八八年)。
- (11) 鯖江商工会議所創立四十周年記念(一九九九年)。

史料調査全四回(日程・調査メンバー)

- 第一回 二〇〇八年九月九日
(小山・渡辺・青木・安藤・飯田・伊奈(藤村))
- 第二回 二〇〇九年一月七日(小島・小山・渡辺・青木・安藤)
- 第三回 二〇〇九年九月十四日・十五日(渡辺・青木・安藤・松金)
- 第四回 二〇一〇年九月三日(安藤)

(文責 安藤弥)

鯖江本山誠照寺調査史料目録

(一) 法宝物

- 1 一尊十二光仏藕糸曼陀羅 一幅 絹本着色(本紙全体刺繍)
縦一〇二・五 cm×横三八・三 cm
総高五六・五 cm 身高七四・五 cm 顔高九・三 cm 顔幅七・八 cm
光輪幅二一・八 cm 肩幅一七・〇 cm 裾幅二一・二 cm
光明 上三・下五 総計二四本 化仏一二体
- 2 髮繡六字名号 一幅 絹本着色(本紙全体刺繍)
(本紙) 六一・二 cm×横一六・〇 cm
(本紙外) 一八・六 cm×横一八・二 cm (この部分も刺繍あり)
- 3 紺地金泥光明十字名号 一幅 絹本着色
縦一一〇・五 cm×横四〇・一 cm
光明 上六・下八 総計四五本
金泥名号文字部分修補
- 4 源空和讃(伝親鸞筆) 一枚 紙本墨書
縦一七・四 cm×横一三・二 cm
「本師源空ノ本地ヲハ」以下四行 室町中期ごろか
- 5 親鸞真向影像 一幅 絹本着色
- 6 秀誠筆六字名号 一幅 紙本墨書
縦九〇・〇 cm×横八六・〇 cm
後地金色は補 四ツ狭間
縦七八・八 cm×横二九・二 cm
「仏子釈秀誠書之(朱印)」
- 7 本尊阿弥陀如来立像(善光寺式三尊の中尊) 一躯 木造
像高四六・五 cm 厨子入り 金銅仏 江戸時代
- 8 阿弥陀如来坐像(上野別院本尊) 一躯 木造
像高五二・五 cm 平安時代
- 9 誠照寺親鸞絵伝 四幅 絹本着色
(第一幅) 縦一四一・三 cm×横八一・六 cm
(第二幅) 縦一四一・〇 cm×横八一・六 cm
(第三幅) 縦一四一・三 cm×横八一・四 cm
(第四幅) 縦一四〇・九 cm×横八一・四 cm
第三幅に「車の道場」の場面、第四幅最後の堂舎は誠照寺(本願寺ではない)という独自性あり。
- 10 説相箱(後水尾天皇下賜) 一点

縦三七・二 cm × 横二八・四 cm × 高一三・〇 cm

慶長十七年（一六一二）

「的山知空（花押）」 「的山上人（花押）」

11 親鸞坐像 一軀

像高約七・五 cm 膝張約九・五 cm

江戸時代 経蔵内厨子入り 玉眼なし

12 道性坐像 一軀

像高約九・六 cm 膝張約一〇・一 cm

江戸時代 経蔵内 玉眼あり

13 如覚坐像 一軀 像高約七・八 cm 膝張約八・三 cm

江戸時代 経蔵内木箱入り 玉眼あり

14 聖徳太子木像（十六歳孝養像） 一軀

像高約一〇・八 cm 本堂内厨子入り 玉眼あり

(二) 典籍

1 御文章 一冊 袋綴（紙数六・二葉）

縦二六・三 cm × 横一九・二 cm

誠照寺第三世如覚作（伝）。万治元年（一六五八）十月秀山（誠

照寺第十四世）の奥書。一頁五行、片仮名交り漢字振仮名あり。

濁点があるので江戸時代の写本と知られる（原本は内事にあるか）。

表紙「旧 御文 十五通」（紺地金泥蓮華文）

奥書「万治元年戊戌十月日 上野山誠照寺 秀山上人（花押・朱

印）」（花押の上に子持朱丸印。径五・九 cm）

2 現御文章草本 一冊 袋綴（紙数五・二葉）

縦二七・三 cm × 横一九・二 cm 誠照寺第十五世秀誠作。

半葉六行、片仮名交り漢字振仮名なし

表紙「秀誠上人 御文章草本 廿七通」（紺地金泥蓮華文）

3 誠公滴伝記 一冊 袋綴（紙数三・〇葉）

縦二七・二 cm × 横一九・一 cm 元禄四年（一六九二）十二月

法隆寺良順作と伝える（法隆寺は誠照寺末寺か）。

半葉七行、片仮名交り漢字振仮名なし

表紙は墨付なし、内題「誠公滴伝記」

奥書「右上人自示滅当五十日 為知恩報徳記之畢」

4 御正忌報恩講御書 一卷 継紙（二紙）

縦三二・四 cm × 横（表紙）二四・〇 cm（第一紙）四五・八 cm（第

二紙）四七・一 cm 天和三年（一六八三）十一月十九日

漆箱入り、包紙あり。表紙は題箋・墨付なし、茶地中七宝雲紋布

製。見返しは金紙（ともに後補）。

包紙上書「天和三年 中興上人御真筆 二尊様報恩講御書（保存）」

奥書「天和第三歳次癸亥霜月十九日 釈秀誠（花押）／報恩講

良順」

5 閻浮檀金手引阿弥陀如来仏像記 一卷 継紙（五紙）

縦二八・七 cm×横(表紙)一四・一 cm(第一紙)四九・二 cm(第二紙)四九・〇 cm(第三紙)四七・五 cm(第四紙)五〇・〇 cm(第五紙)四三・〇 cm 延宝八年(一六八〇)七月
表紙は題箋・墨付なし、紺地布目紙・金蓮雲散らし。見返しは金布目紙(ともに後補)。本紙は鳥の子紙。

6 御伝鈔上下 二卷
奥書「延宝八年七月越前州上野山誠照寺第十五世住持釈秀誠謹識」

縦二九・九 cm×横(表紙)二一・一 cm

仮題箋(縦一四・五 cm×横二・四 cm)「御伝記 上(下)」(金紙墨書) 内題「親鸞聖人伝記上(下)」 奥書なし

表紙は紫布金で雲の中に八藤紋散らし。御俗姓御書とともに漆箱入り。内容には誠照寺派独自の箇所がある。

7 御俗姓御書 一卷

縦三五・四 cm×横(表紙)一九・五 cm

包紙上書「宗祖聖人 御俗姓御書 十一月二十五日二拝読」

表紙は黄茶地布で菊桐唐草紋様、見返しは金布目紙

外題・内題ともなし。 御伝鈔上下とともに漆箱入り。

8 御伝鈔上下(庭田重孝筆) 二卷 紙本墨書

縦三五・〇 cm×横二四・三 cm 寛保三年(一七四三)七月

木箱上書「御伝書 庭田大納言重孝卿筆」 外題なし

内題「親鸞聖人御伝記 上(下)」 奥書「依権大僧都秀憲之処、

不獲止而模写之、以与之／昔寛保第三歲次癸亥七月上幹／正二位権大納言重孝(朱印「庭田之印」)：縦三・二 cm×横三・一 cm(朱印「原水」)：縦三・三 cm×横三・三 cm」
本紙は鳥の子紙で金雲模様。表紙は布多色織、見返しには金布目。

(三) 古文書

【0】宝物殿

1 藤原数元寄進状 一通 一紙

縦五〇・三 cm×横二八・七 cm

永享五年(一四三三)六月一日(花押)

2 修理大夫奉書 一通 一紙

縦二九・四 cm×横四八・七 cm

永享十一年(一四三九)七月三十日

修理大夫↓誠照寺住持

3 織田信長朱印状 一通 折紙

縦二七・一 cm×横四四・七 cm

天正三年(一五七五)六月六日

織田信長(朱印)↓大野郡 池田ノ庄 諸給人中・日蓮門徒中

・三門徒中

4 羽柴秀吉安堵状 一通 折紙

縦三二・三 cm×横五〇・〇 cm

- 天正十一年(一五八三) 四月二十六日
筑前守羽柴秀吉(花押) ↓越前国 誠照寺
- 5 徳川家光歳暮礼状 一通 切紙
縦二二・九cm×横六七・八cm
(年未詳) 十二月二十八日 家光(花押) ↓(あて所欠)
- 6 誠照寺境内古函 一枚
縦一二二・八cm×横一〇八・五cm
元禄十年(一六九七) 八月十日
- 7 鯖江誠照寺境内禁制 一通
縦四五・六cm×横六九・四cm
万治二年八月 日 光通(朱印)
- 【1】古文書函1
- 1 一枚起請文 一幅 紙本墨書
縦二八・二cm×横四二・六cm
源空署名の下に金蓮台あり(後補)
一八世紀ころか(文字は一七世紀までいかない)
- 2 誠照寺第十四世秀山書付 一通 折紙
縦一六・五cm×横四五・六cm
勸修寺大納言あての書付。
- 3 七月九日付書付 一通 一紙
- 4 文書写一綴 六通 一綴
縦一六・二cm×横三四・〇cm
「文科大学二貸与ス」(①天正十一年秀吉書状、②慶長三年羽柴紀伊守書状、③文正元年別当代延衲書状、④永享十一年修理大夫奉書、⑤永享七年藤原数光寄進状、⑥永享六年某町屋敷寄進状)
- 5 堀一信書状 一通 折紙
縦一五・七cm×四七・〇cm
慶長五年(一六〇〇) 五月十三日 包紙上書「堀宮内殿」
堀宮内一信(花押) ↓鯖江村誠照寺御門末中
- 6 乍恐奉願口上覚 一通 継紙
縦三二・六cm×横八六・七cm
宝永二年(一七〇五) 四月
越前国佐波郷誠照寺 誠照寺境内・誠照寺引高について
- 7 南坊宗意等連署状(託証文) 一通 一紙
縦三〇・一cm×横四三・六cm
慶長十年(一六〇五) 十月四日
南坊宗意(花押)・同兵部卿(花押)・寺本道通(花押) ↓鯖江誠照寺秀意上人様
- 8 西坊良知等連署状(託証文) 一通 一紙
縦三〇・〇cm×横四三・四cm
慶長十年(一六〇五) 十月四日

- 9 西坊良知(花押)・同民部卿(花押)・瓜生村清造(花押)↓誠照寺秀意上人様
喜多坊順慶等連署状(詫証文) 一通 一紙
縦三〇・〇cm×横三四・三cm 慶長十年(一六〇五)十月四日
喜多坊順慶(花押)・同亀千代丸(花押)・瓜生法泉(花押)↓御上人様参
- 10 別当代延衲書状 一通 折紙
縦二九・六cm×横四四・七cm
文正元年(一四六六)六月廿七日
別当代延衲(花押)↓因幡法眼御坊
- 11 藤原数光寄進状 一通 一紙
縦二九・六cm×横四三・一cm
永享六年(一四三四)九月五日
「奉寄進越前国鯖江庄公文内之内帛事」
- 12 朝倉孝景壁書 一通 一紙
縦二三・二cm×横四三・一cm
享祿五年(一五三二)四月日
「河俣 常楽寺」あて
- 13 修理大夫奉書 一通 一紙
縦二九・四cm×横四八・七cm
永享七年(一四三五)七月廿九日
- 14 修理大夫(花押)↓真照寺住持御房
某奉書 一通 一紙
縦二九・七cm×横四八・九cm
応永二十三年(一四一六)七月二十五日
(花押)↓真照寺□□御房
- 15 青木一矩諸役免許状 一通 折紙
縦三〇・七cm×横四八・二cm
慶長三年(一五九八)十一月十三日
羽柴紀伊守□(花押)↓鯖江村誠照寺
- 16 丹羽長秀禁制 一通 折紙
縦三〇・五cm×横四七・九cm
天正十一年(一五八三)五月二十五日
五郎左衛門尉長秀(花押)↓鯖江誠照寺
- 17 相承記 一冊 縦帳(紙数一六)
縦二六・九cm×横一九・五cm
寛永十年(一六三三)十一月二十五日
奥書「右為於後世欲令知血脉相承之来由記置年月忌日者也 寛永拾年十一月廿五日 真宗相承十四世 秀山(花押)」
- 18 安心鈔 一冊 縦帳(紙数二八)
縦二七・三cm×横一九・〇cm
永和二年(一三七六)

奥書「昔永和二丙辰歲仲秋穀旦真宗相承第五代积秀覺誌之」

19 柵補和漢年契 一冊

縦二六・一 cm×横一八・一 cm

万延元年（一八六〇）

20 誠照寺境内図面 一綴

縦二八・二 cm×横四五・四 cm

図面五枚（表・裏表紙付）

21 西福寺等連署起請文（指上申一札事） 一通 継紙

縦二九・八 cm×横四二・八 cm

天和二年（一六八二）八月一日

二十一か寺連署（寺内西福寺・同南光寺・同願生寺・同真覺寺・

同本正寺・大桐村正光寺・寺内法林寺・池田土合村西徳寺・池田

河内村円光寺・専念寺・願養寺・中島村専光寺・熊河村養休寺・

水海村誠徳寺・谷口村善徳寺・志津大森村善福寺・清水村清照寺・

米之浦養泉寺・織田中村浄源寺・奥平村浄感寺・平吹寺常光寺）

22 申物定・位階式・法座之定 一通 継紙（六紙剥離）

縦三〇・四 cm×横四二・九 cm（一枚目のみ）

23-1 誠照寺第十五世秀誠遺書 一通 継紙（二紙）

縦三七・九 cm×横二九・一 cm（一枚目）十三九・二 cm（二枚目）

寛文六年（一六六六）四月十日

西鯖江上野山誠照寺十五世积子秀誠（花押）↓末寺門下中

包紙入り

23-2 誠照寺由緒書 一通 継紙

縦三二・四 cm×横九一・二 cm

元禄六年（一六九三）七月

端裏書「日光様へ上ル 元禄六酉年」

23-3 寺号免許状 一通 折紙

縦三六・九 cm×横五一・八 cm

承応二年（一六五三）九月十八日

上野山誠照寺秀山上人（花押）↓池田月ヶ瀬村常刻寺

包紙上書「池田月ヶ瀬村之常刻寺ニ遣」

23-4 法名免許状 一通 折紙

縦三一・五 cm×横四六・三 cm

承応三年（一六五四）十一月二十四日

上野山誠照寺秀山上人（朱印）↓法名道音

包紙上書「法名 □やう□」「常養寺法名」

23-5 寺号免許状 一通 一紙

縦三〇・四 cm×横二六・八 cm

慶長八年（一六〇三）三月二十七日

誠照寺秀意上人（花押）↓池田庄月ヶ瀬村浄刻寺

23-6 勸修寺経慶書状写 一通 一紙

縦三八・八 cm×横五二・四 cm

元禄六年（一六九三）六月九日

経慶↓誠照寺秀海上人御房

包紙上書「元禄六年秀海上人参内之節、勸修寺大納言経慶添状」

（次号文書と同封）

23 | 7 勸修寺経慶書状 一通 一紙

縦三二・六 cm × 横四六・二 cm

元禄六年（一六九三）六月九日

経慶↓誠照寺秀海上人御房

23 | 8 上人号参内御礼物書上 一通 一紙

縦三二・六 cm × 横四五・五 cm

（元禄六年（一六九三））

越前国誠照寺秀海↓本院御所様

23 | 9 上人号参内御礼物書上 一通 一紙

縦三二・四 cm × 横五五・三 cm

（元禄六年（一六九三））

越前国誠照寺秀海↓禁裏様

23 | 10 上人号参内御礼物書上 一通 一紙

縦三七・四 cm × 横五五・三 cm

（元禄六年（一六九三））六月九日

越前国誠照寺秀海↓仙洞御所様

23 | 11 報謝錢受取状 一通 一紙

縦三三・二 cm × 横四六・四 cm

元禄十五年（一七〇二）十一月二十八日

23 | 12 誠照寺秀海等連署状写 一通 一紙

縦三二・八 cm × 横四六・一 cm

元禄六年（一六九三）六月五日

誠照寺住持秀海・同役者法林寺恵南↓「右勸修寺殿へ遣候書留也」

24 真宗本山誠照寺閻浮檀金手引阿弥陀佛像略縁起 一冊

草稿・刷物 縦一九・四 cm × 横一三・四 cm

25 鯖江古録集所収之図 一枚 一紙

縦二四・六 cm × 横三三・八 cm

「元禄十年古図」【0】6 の写し

26 仙院御移徙行列 一冊 横帳

縦二二・二 × 横八・二 cm

享保二十年（一七三五）三月二十七日

27 由緒書（執奏家勸修寺へ差出候写） 一冊 竖帳

縦二四・四 cm × 横一七・五 cm

慶応四年（一八六八）七月

執筆者||誠照寺役者本正寺印 「越前国今立郡西鯖江 浄土真宗

一派本山 誠照寺 権大僧正秀量」

28 伝統御相承式略記 一冊

縦二六・二 cm × 横一八・二 cm

明治四十五年（一九一三）四月二十六日

29 本山過去帳 一冊

縦二四・五 cm×横一八・三 cm

下限は昭和二十年（一九四五）頃

【2】古文書函2

1 青蓮院尊純法親王筆「石清水臨時祭使事」 一卷 継紙

縦三四・四 cm×横一四三・六 cm (①四七・二 cm+②四七・五 cm+

③四八・九 cm、見返し三〇・七 cm) 江戸時代(前期)

木箱上書「青蓮院尊純法親王御筆」 本紙は色紙で地紋金泥。

表紙は緑地花散らし、見返しは金布目地。

青蓮院尊純（一五九一〜一六五三）：青蓮院第四十八世で後に第

一七三世天台座主になる。日光山輪王寺門跡を兼帯した。

2 須弥燈王仏事（聖教切） 一幅 継紙（二紙）

縦一七・八 cm×横一六・七 cm (①九・〇 cm+②七・七 cm)

室町時代末ころか。

3 誠照寺第二十世秀実御書 一卷 継紙

縦三三・三 cm×横一四六・五 cm 寛政七年（一七九五）

包紙上書「秀実上人御書 女人講中江」 本紙は描線界。

書き出し「ソレ多生ニモキ、カタキ経法 サイハヒニキク」

奥書「寛政七乙卯季四月二十八日 秀実（花押） 女房講中」

4 誠照寺第二十世秀実御書 一卷 継紙

縦三三・四 cm×横一五六・五 cm 明和三年（一七六六）

包紙上書「秀実上人御書 裏方御筆」

書き出し「それ人界のありさまを案するにいつる」

奥書「明和三丙戌年臘月二十三日 秀実（花押） 末寺 檀方江」

5 誠照寺第十七世秀如御書 一卷 継紙

縦三三・二 cm×横一四五・八 cm 宝永七年（一七一〇）

包紙上書「歴代法主方御法要御中日逮夜ニ拝読スル御書 有名ナ

ル 秀如上人衣珠喩ノ御書」

奥書「宝永第七歳次庚寅仲夏二十二日 釈秀如」

6 誠照寺第二十世秀実御書 一卷 継紙

縦三一・一 cm×横一四三・六 cm 寛政七年（一七九五）

包紙上書「真筆 秀実上人濃州への御書（濃州夏巡り御書）」

書き出し「ソレ盛者必衰ノアリサマハ マノアタリナリ」

奥書「寛政七乙卯季五月二十七日 秀実（花押） 濃州 坊主中

門徒中」

7 真照寺略系譜 一卷 継紙

縦三八・五 cm×横（四八紙）

親鸞ノ第十二代秀顕（永禄三年（一五六〇）〜元和七年（一六二

一） 外題「真照寺略系譜」 内題「略系譜」

8 阿弥陀経（誠照寺第十七世秀如筆） 一冊 折本

縦一四・四 cm×横六・四 cm 江戸時代(中期)

包紙上書「秀如上人御真筆 阿弥陀経」 本紙、紺地金泥

秀如(延宝三年(一六七五)〜享保十四年(一七二九))

9 誠照寺史要 一冊 明治四十二年(一九〇九)

縦二三・三 cm×横一七・〇 cm

帙入一冊・裸本一冊

10 財産登録台帳 一冊 昭和十六年(一九四一)十月十日

福井県に提出。真宗誠照寺派誠照寺罫紙を使用。

11 歌石縁起(絵入) 二枚

①三〇・五 cm×横九五・〇 cm ②縦三二・七 cm×横四六・三 cm

【3】古文書函3

1 東板屋村専念寺改派一件につき始末書 一冊 縦帳

縦二四・一 cm×横一七・四 cm

嘉永五年(一八五二)正月

2 専念寺改派一件書上書之写 一冊 縦帳

縦二七・一 cm×横一九・三 cm

嘉永五年(一八五二)二月十三日

3 西福寺等四十三か寺請書 一冊 縦帳

縦三二・八 cm×横二二・五 cm

(年月日未詳)

4 誠照寺秀量書状案 一通 折紙

縦三九・九 cm×横三五・六 cm

安政六年(一八五九)十月一日

包紙上書「勸修寺殿 閣下 秀量」

誠照寺秀量判↓勸修寺殿 閣下

添状「戒俗並実名」(西福寺観智)

5 誠照寺秀如書状案 一通 折紙

縦三四・八 cm×横四七・三 cm

元禄十四年(一七〇一)五月三日

包紙上書「勸修寺殿 閣下 秀如」

誠照寺秀如判↓勸修寺殿閣下

6 徳川氏系図 一卷 継紙

縦一九・三 cm×横

7 本多弾正少弼禁制写 一紙 切紙

縦四五・五 cm×横一六・四 cm

(年未詳)西十二月

8 役所略日記 一冊 縦帳

包紙上書「従本多弾正少弼殿被仰渡候御書付一通(写)」

縦二三・七 cm×横一六・四 cm

嘉永二年(一八四九)

9 祖師極札 一点

- 縦一二・二 cm×横一・九 cm
包紙上書「祖師 極札」
本紙「親鸞聖人 須弥(印影)」
- 10 聖教抜書「粟下十三丁第五大門下」 一冊 仮綴(二〇丁)
縦二二・六 cm×横一六・二 cm
- 11 歴代忌日 一冊 豎帳(三五丁)
縦一八・四 cm×横一三・二 cm
挟み込み一紙(月内忌日一覽)あり
- 12 同行中村附 一冊 横半帳(二〇丁)
縦一九・八 cm×横一四・〇 cm
寛政十二年(一八〇〇)十一月
- 13 申案(権僧正・秀存) 一通 折紙
縦三六・五 cm×横五〇・三 cm
包紙上書「輪王寺宮院家 越前国佐波江 誠照寺 権大僧都秀存 三十三歳」
- 14 申案(権僧正・秀量) 一通 折紙
縦三九・二 cm×横五二・五 cm
包紙上書「輪王寺宮院家 越前国佐波江 誠照寺 権大僧都秀量 廿九歳」
- 15 九条兼実六百五十回忌につき連署状 一通 折紙
縦三七・八 cm×横五〇・二 cm
- 16 道中人馬につき先触 一通 折紙
縦一五・九 cm×横四四・九 cm
天明八年(一七八八)四月二十四日
包紙上書「先触 東叡山 仏頂山役人 本郷令吾」
「板橋より北陸路 越前佐波江迄 宿々問屋中」あて
- 17 法名免許状 一通 一紙
縦三二・八 cm×横四五・七 cm
宝永二年(一七〇五)四月五日 包紙上書「法名 誠如」
上野山 誠照寺 釈秀如(花押) ↓法名釈誠如
- 18 中山忠敬家族由緒書 一冊 袋綴
縦三三・五 cm×横二三・二 cm
(年未詳)亥八月三十日
「中山家 石川圭(黒印) 十川隼人(黒印)」
包紙上書「御由緒書」
- 19 王政復古の大号令などにつき請書 一通 一紙
縦三九・一 cm×横五三・〇 cm
慶応四年(一八六八)二月二十四日
包紙上書「御請書」 署名「越前今立郡西鯖江 浄土真宗一派

- 20 誠照寺(黒印) 秀量権僧正(花押)「朝廷一新の趣意につき請書 一通 一紙
 縦三九・〇cm×横五三・〇cm
 慶応四年(一八六八)二月二十四日 包紙上書「御請書」
 越前国今立郡西鯖江 浄土真宗一派 誠照寺(黒印) 秀量権僧
 正(花押) ↓鎮撫御使節御役人御中
- 21 誠照寺内人別改書上 一通 継紙
 縦三九・〇cm×横五三・六cm
 慶応四年(一八六八)六月 誠照寺 ↓勸修寺殿雜掌中
 奉願口上覚(住職代替につき) 一通 継紙
 縦三五・九cm×横九一・九cm
 明治二年(一八六九)六月 包紙あり(貼紙あり)
 越前国鯖江誠照寺秀量(黒印) ↓勸修寺大宮大進
- 22 永拝借地証文 一通 折紙
 縦三一・四cm×横七八・五cm
 安政四年(一八五七)五月
 中嶋丈吉(黒印) ↓上野山御内 本正寺殿 真覚寺殿 法林寺殿
 誠照寺秀量書状 一通 継紙
 縦一八・〇cm×横七〇・八cm
 (年未詳)五月
 奉願口上覚(献金) 一通 継紙
- 23 誠照寺内人別改書上 一通 継紙
 縦三九・〇cm×横五三・六cm
 慶応四年(一八六八)六月十四日
 包紙上書「献金請取書」
 越前西鯖江誠照寺 ↓弁事御役所
 献金二百両請取状 一通 継紙
 縦四四・八cm×横五八・〇cm
 慶応四年(一八六八)六月十四日
 包紙上書「献金請取書」
- 24 誠照寺境内諸役免許状写 一通 一紙
 縦四六・二cm×横六四・一cm
 天明八年(一七八八)九月十一日 差出・受取ともに未記載。
 報恩講中懇志受取状 一通 一紙
 縦三二・八cm×横四七・一cm
 宝永二年(一七〇五)十一月二十八日
 「報恩講中」あて
 貸地証文案 一通 一紙
 縦三二・四cm×横四五・九cm
 安政三年(一八五六)八月 包紙上書「証文」
 誠照寺役者 法林寺 真光寺 本正寺 ↓中嶋丈吉
- 25 誠照寺(黒印) 秀量権僧正(花押)「朝廷一新の趣意につき請書 一通 一紙
 縦三六・〇cm×横三九・五cm
 慶応四年(一八六八)六月九日
 包紙上書「献金願 越前西鯖江誠照寺(貼紙)「献金、願之通た
 るへき事 会計所」
 越前西鯖江誠照寺 ↓弁事御役所
- 26 誠照寺内人別改書上 一通 継紙
 縦三九・〇cm×横五三・六cm
 慶応四年(一八六八)六月十四日
 包紙上書「献金請取書」
 會計官出納司(朱印) ↓越前鯖江誠照寺
- 27 誠照寺境内諸役免許状写 一通 一紙
 縦四六・二cm×横六四・一cm
 天明八年(一七八八)九月十一日 差出・受取ともに未記載。
 報恩講中懇志受取状 一通 一紙
 縦三二・八cm×横四七・一cm
 宝永二年(一七〇五)十一月二十八日
 「報恩講中」あて
 貸地証文案 一通 一紙
 縦三二・四cm×横四五・九cm
 安政三年(一八五六)八月 包紙上書「証文」
 誠照寺役者 法林寺 真光寺 本正寺 ↓中嶋丈吉
- 28 誠照寺(黒印) 秀量権僧正(花押)「朝廷一新の趣意につき請書 一通 一紙
 縦三六・〇cm×横三九・五cm
 慶応四年(一八六八)六月九日
 包紙上書「献金願 越前西鯖江誠照寺(貼紙)「献金、願之通た
 るへき事 会計所」
 越前西鯖江誠照寺 ↓弁事御役所
- 29 誠照寺内人別改書上 一通 継紙
 縦三九・〇cm×横五三・六cm
 慶応四年(一八六八)六月十四日
 包紙上書「献金請取書」
 會計官出納司(朱印) ↓越前鯖江誠照寺
- 30 誠照寺境内諸役免許状写 一通 一紙
 縦四六・二cm×横六四・一cm
 天明八年(一七八八)九月十一日 差出・受取ともに未記載。
 報恩講中懇志受取状 一通 一紙
 縦三二・八cm×横四七・一cm
 宝永二年(一七〇五)十一月二十八日
 「報恩講中」あて
 貸地証文案 一通 一紙
 縦三二・四cm×横四五・九cm
 安政三年(一八五六)八月 包紙上書「証文」
 誠照寺役者 法林寺 真光寺 本正寺 ↓中嶋丈吉

二條秀源へ辞令書四通・請書二通 一紙

包紙上書「真宗誠照寺派管長 二條秀源殿 内務省 社寺局
「辞令書四通」(朱筆)」

①明治六年(一八七三)十月四日 「補大講義」

縦二一・三 cm×横二七・九 cm

教部大丞從五位三嶋通庸↓誠照寺住職二條秀源

②明治七年(一八七四)四月八日 「補權少教正」

縦二一・八 cm×横二八・〇 cm

太政官↓大講義二條秀源

③明治十一年(一八七八)十一月二十六日 「補權中教正」

縦二二・二 cm×横二九・二 cm

太政官↓權少教正二條秀源

④明治十七年(一八八四)四月五日 「補中教正」

縦二二・九 cm×横三〇・九 cm

太政官↓權中教正二條秀源

⑤權中教正補任につき二條秀源請書(一通・一紙)

縦二八・〇 cm×横二〇・〇 cm

明治十二年(一八七九)一月十二日

石川県越前国今立郡鯖江下深江町 真宗誠照寺住職 權中教正

二條秀源↓太政官書記官御中

⑥中教正補任につき二條秀源請書(一通・一紙)

縦二八・二 cm×横四〇・〇 cm

明治十七年(一八八四)四月二十五日

真宗誠照寺派住職 權中教正二條秀源↓内閣書記官御中

31 皇室写真 四枚六面

①明治天皇 一枚 縦一六・四 cm×横一〇・八 cm

②明治天皇妃 一枚 縦一六・四 cm×横一〇・八 cm

③大正天皇(表・裏) 一枚 縦一六・三 cm×横一〇・三 cm

④昭和天皇表・裏は女性(昭和天皇妃ではない) 一枚

縦一六・三 cm×横一〇・三 cm

32 清涼殿之図 一枚

縦四四・七 cm×横二八・六 cm

「清涼殿之図」從勸修寺殿被遣之」 江戸時代後期

33 教導職関係文書 四通

包紙上書「末弟返上補狀參通/外二取締依頼狀壹通」

①佐々木祐恵あて教導職試補(大教正大谷光勝)

縦二一・八 cm×横二八・六 cm

明治八年(一八七五)四月十五日

②滋野井教受あて補訓導(印「教部省」)

縦二一・七 cm×横二八・六 cm

明治八年(一八七五)二月五日

③小泉了昌あて補訓導(印「教部省」)

縦二一・七 cm × 横二八・六 cm

明治八年（一八七五）二月五日

④二條秀源あて教導職取締（権少教正藤木道盈）

縦二一・九 cm × 横三九・〇 cm

明治七年（一八七四）五月

34 私信（狛式部） 一通（茶封筒入）

縦一五・八 cm × 横五七・〇 cm

正月八日 狛式部 ↓ 僧正殿

35 総会所献納関係書類 六点

包紙上書（朱筆）「総会所献納ニ付テノ請書」／上

①暈・障子等献納記 一通

谷口村 平井隠居（朱印） ↓ 御本山様

明治十七年（一八八四）十一月十六日

②総会所献納記 一通

谷口村 平井甚左衛門 / 老人 積了圓 / 积妙信 ↓ 二條秀源殿

明治十七年（一八八四）九月廿九日

③湯浅徳太郎あて平井甚左衛門書状 一通

（年未詳）二月十八日

④志納状 一通

谷口村 平井甚左衛門 / 隠居 / 了圓 ↓ 志納場御中

明治十七年（一八八四）九月

⑤軍事公債主印鑑（二條秀源）

明治廿七年（一八九四）十月

36 禁中書付 一冊 横帳（二六丁）

縦二一・二 cm × 横一四・九 cm

御所諸殿坪数・障壁画等 江戸時代後期

37 詩集（漢詩集） 一冊 袋綴（墨付一九丁）

縦二七・〇 cm × 横一八・五 cm 江戸時代後期

38 詩集（漢詩集） 一冊 袋綴（全二一丁・墨付二〇丁）

縦二四・一 cm × 横一五・八 cm 江戸時代後期

39 金沢紀念標ニ関スル書類 四通

縦一九・七 cm × 横

陸軍歩兵少佐田中正基 ↓ 権中教正二條秀源

明治十三年（一八八〇）

40 永代経法名附記 一冊 袋綴（和綴全七〇丁・墨付三二丁）

縦二六・二 cm × 横一八・五 cm

正徳・享保期からの法名台帳

41 誠照寺関係諸本抜書 四枚 仮綴

縦二六・〇 cm × 横一八・〇 cm

越前名勝誌・帰雁記・越前国寺院縁起・鯖江誌などより抜書

42 某書状 一通

極月七日

【4】古文書函 4

- 1 誠照寺第二十六世秀源の猶子契約に関する書狀類
包紙入三通 包紙上書「誠照寺 秀源」
①藤井但馬守等三名連署狀 一通 折紙
縦三九・七 cm×横五四・七 cm
安政五年（一八五八）六月二十一日
藤井但馬守尚弼（花押）・井上佐渡守正文（花押）・芦田下総守
珍敬（花押）↓誠照寺殿
②誠照寺第二十五世秀量書狀 一通 折紙
縦三八・九 cm×横五一・二 cm 年月日未記
誠照寺秀量↓勸修寺正五位殿
③勘例 一通 折紙 縦三九・〇 cm×横五一・二 cm
書付「申 法眼 秀源」 一通 折紙
縦四一・二 cm×横五三・四 cm
- 3 宣旨写（秀誠） 一通 一紙
縦三二・四 cm×横四六・四 cm
寛文三年（一六六三）六月十九日
包紙上書「誠照寺住持秀誠上人 御房 左中弁経慶」
勸修寺経慶↓誠照寺第十五世秀誠
- 4 宣旨写（秀山） 一通 一紙
縦三二・四 cm×横四六・四 cm
- 5 宣旨写（秀山） 一通 一紙
縦三二・四 cm×横四六・四 cm
寛永四年（一六二七）三月二十日
包紙上書「誠照寺住持秀山上人御房 権左少弁経廣」
勸修寺経廣↓誠照寺第十四世秀山
- 6 口宣案（秀存） 一通 一紙
縦三四・四 cm×横五二・六 cm
享保十四年（一七二九）五月二日
包紙上書「口宣案 権僧正秀存」 端裏書「口宣案」
藏人左少弁兼春宮大進藤原植房↓誠照寺第十八世秀存
- 7 口宣案（秀如） 一通 一紙
縦三四・四 cm×横五二・九 cm
元禄十四年（一七〇一）四月二十一日
包紙上書「口宣案 誠照寺秀如権僧正」 端裏書「口宣案」
藏人左中弁藤原輝光↓誠照寺第十七世秀如
- 8 宣旨写（秀如） 一通 一紙
縦三七・三 cm×横五六・九 cm
元禄十四年（一七二九）四月二十一日

修理東大寺大仏長官左大史小槻宿祢季連↓誠照寺第十七世秀如

9 宣旨写(秀源) 一通 一紙

縦三九・二cm×横五四・四cm

明治四年(一八七二)五月八日

包紙上書「初官宣旨」 誠照寺第二十六代秀源「任少僧都」

10 光台院(誠照寺第二十五世二條秀量)補任状 三通 一紙

包紙上書「光台院殿 補状(教正) 参通」

①明治十一年(一八七八)十二月二十六日 太政官↓二條秀量

「補権少教正」 縦二三・三cm×横二九・三cm

②明治十四年(一八八一)十二月二十一日 太政官↓二條秀量

「補権中教正」 縦二三・八cm×横三一・〇cm

③明治十六年(一八八三)四月二十三日 太政官↓二條秀量

「補中教正」 縦二二・八cm×横三〇・九cm

11 宣旨写(秀量) 一通 一紙

縦三五・二cm×横五五・五cm

安政五年(一八五八)十二月七日 包紙上書「秀量」

造興福寺判官大蔵大丞兼右大史三兼朝臣亮功↓権大僧都秀量

「任権僧正」

12 口宣案(秀量) 一通 一紙

縦三三・八cm×横五一・一cm

安政五年(一八五八)十二月七日 包紙上書「口宣案」

端裏書「口宣案」 蔵人頭左大弁藤原胤保↓権大僧都秀量

「任権僧正」

13 宣旨写(秀存) 一通 一紙

縦三九・七cm×横五五・五cm

享保十四年(一七二九)五月二日

修理東大寺大仏長官主殿頭兼左大史小槻宿祢孟春↓権大僧都秀存

「任権僧正」

14 宣旨写・口宣案(秀実) 二通

宝曆十一年(一七六一)四月二十七日 包紙上書「秀実」

①口宣案 一通 一紙 縦三三・二cm×横五〇・九cm

包紙上書「口宣案 権僧正秀実」 端裏書「口宣案」

蔵人頭右近権中将藤原宗濟↓権大僧都秀実 「任権僧正」

②宣旨写 一通 一紙 縦三七・七cm×横五三・九cm

主殿頭兼左大史小槻宿祢知音↓権大僧都秀実

15 宣旨(真照寺如覚) 一通 一紙

縦三三・五cm×横四五・六cm

嘉元三年(一三〇三)三月十九日 左少弁↓真照寺如覚上人

(後世の作成か)

16 宣旨(秀海) 一通 一紙

縦二四・三cm×横五二・七cm

元禄六年(一六九三)六月七日

包紙上書「誠照寺住持秀海上人 御房 左中弁尹隆」

左中弁↓誠照寺住持秀海上人御房

17 宣旨(秀意) 一通 一紙

縦三三・一 cm×横四三・六 cm

天正十七年(一五八九)四月二十五日

包紙上書「誠照寺秀意上人御房 左少弁光業」

左少弁↓誠照寺秀意上人

18 宣旨(秀誠) 一通 一紙

縦三四・三 cm×横五二・四 cm

寛文三年(一六六三)五月二日

包紙上書「誠照寺住持秀誠上人 御房 左中弁経慶」

左中弁(花押)↓誠照寺住持秀誠上人御房

19 宣旨(秀源) 一通 一紙

縦三九・一 cm×横五四・三 cm

明治三年(一八七〇)七月四日

包紙上書「直叙法眼宣旨」 「叙法眼」

20 松平忠昌禁制 一通 一紙

縦三七・五 cm×横五六・八 cm

寛永元年(一六二四)十一月

包紙上書「(貼紙)「制札 宰相殿」 鯖江 誠照寺」

【5】古文書函5

1 松平忠昌寺地安堵状 一通 一紙

縦三七・三 cm×横五二・六 cm

寛永元年(一六二四)十二月(朱印)↓鯖江誠照寺

松平忠昌は福井藩第三代藩主。

包紙上書「鯖江 誠照寺」

2 松平光通諸役免許状 一通 一紙

縦四六・三 cm×横六四・九 cm

万治二年(一六五九)八月 光通(朱印)↓誠照寺

松平光通は福井藩第四世藩主。

包紙上書「誠照寺」。

3 松平昌親禁制(定) 一通 一紙

縦四六・六 cm×横六四・九 cm

延宝三年(一六七五)十二月 昌親(朱印)↓鯖江誠照寺

包紙上書「鯖江 誠照寺」 松平昌親は福井藩五代藩主。

4 松平昌親諸役免許状 一通 一紙

縦四七・二 cm×横六五・〇 cm

延宝三年(一六七五)十二月 昌親(朱印)↓誠照寺

包紙上書「鯖江 誠照寺」

5 松平綱昌諸役免許状 一通 一紙

縦四七・三 cm×横六五・二 cm

- 延宝五年（一六七七）十二月 綱昌（朱印）↓誠照寺
包紙上書「鯖江 誠照寺」
- 6 松平綱昌禁制（定） 一通 一紙
縦四六・三 cm×横六四・二 cm
延宝五年（一六七七）十二月 綱昌（朱印）↓鯖江誠照寺
包紙上書「鯖江 誠照寺」
- 7 河内守等連署状（諸役免許状）写 一通 一紙
縦三九・五 cm×横五三・〇 cm
宝永二年（一七〇五）十二月七日
河内守判・加賀守判・丹後守判・但馬守判・相模守判↓誠照寺
包紙上書「誠照寺」
- 8 禁制（高札之写） 一通 一紙
縦三二・二 cm×横四三・四 cm
宝永二年（一七〇五）十二月九日 誠照寺
徳川吉宗朱印状写 一通 一紙
- 9 徳川吉宗朱印状写 一通 一紙
縦四四・一 cm×横五七・八 cm
享保三年（一七一八）七月十一日
包紙上書「越前国今立郡鯖江村誠照寺」 端裏書「有徳院様（吉宗）御朱印写 越前国今立郡鯖江村 浄土真宗 誠照寺」
- 10 徳川家重朱印状写 一通 一紙
縦四四・〇 cm×横五七・九 cm
- 延享四年（一七四七）八月十一日
包紙上書「越前国今立郡鯖江村誠照寺」
端裏書「二 家重公」（朱筆・後筆）
- 11 徳川家齊朱印状写 一通 一紙
縦四六・〇 cm×横六三・九 cm
天明八年（一七八八）九月十一日
包紙上書「越前国今立郡鯖江村誠照寺」
- 12 永請地証文 一通 継紙
縦三八・八 cm×横一一三・七 cm
安政三年（一八五六）八月
間部下総守内 作事方 三橋弥三七（黒印）・上田十内（黒印）・
葉田段之丞（黒印）・植村文助（黒印）↓誠照寺御役者中
津幡陸奥守等連署奉書（御寄付状） 一通 継紙
- 13 縦四五・〇 cm×横一一六・〇 cm
安政五年（一八五八）五月
包紙上書「御寄付状」 津幡陸奥守（花押）・西村左馬権助（花押）・
隱岐兵部権小輔（花押）・西村図書頭（花押）・松波大炊頭（花押）・
北小路大蔵権大輔（花押）↓越前国今立郡鯖江誠照寺御
房
- 14 善信等連署状 一通 一紙
縦三二・六 cm×横四五・四 cm

寛永十一年（一六三四）十二月六日

志津大森村善信他一名↓鯖江御本寺秀山上人御侍者御中

15 某書状（当門跡末派之事） 一通 一紙

縦四七・四 cm×横六三・二 cm

（年未詳）八月十七日

（花押）↓誠照寺御房

【6】古文書函6

1 台状 一通 特大折紙

縦四五・〇 cm×横一一五・三 cm

万延元年（一八六〇）四月四日

西村大舎人頭以下五名↓誠照寺

二條家猶子入寺（秀源）

2 制札包紙 一枚

縦五五・一 cm×横三五・二 cm

包紙上書「制札 誠照寺」

3 朱印状写（徳川家治） 一通

縦四四・二 cm×横五五・六 cm

宝曆十二年（一七六二）八月十一日

包紙上書「越前国今立郡鯖江村／誠照寺」

4 江戸幕府家臣連署状 一通 折紙

縦四〇・四 cm×横五六・二 cm

（年未詳：幕末）九月十日

太田備後守資始・松平和泉守乗金・内藤紀伊守信親↓北小路大蔵

権大輔（二條家奉行人）

包紙上書「北小路大蔵権大輔殿／太田備後守／松平和泉守／内藤

紀伊守」

5 江戸幕府家臣連署状 一通 折紙

縦四〇・四 cm×横三二・四 cm

（年未詳：幕末）九月十日

安藤対馬守信暁・本多越中守忠徳・遠藤但馬守胤統・酒井右京亮

忠毗↓北小路大蔵権大輔（二條家奉行人）

包紙上書「北小路大蔵権大輔殿／安藤対馬守／本多越中守／遠藤

但馬守／酒井右京亮」

6 衣帯附 一冊 仮綴（墨付三丁）

縦一六・二 cm×横四四・八 cm

定座院家をはじめとする僧侶身分の衣帯規則（江戸後期）。末尾

には末寺許状の文章雛形。

7 連枝得度二関スル（並ニ教師ニ付キ）書類 一袋

明治四二年（一九〇九） 二條秀源ほか

連枝得度二関スル内規・覚書など

8 酒肴料 一包五点

天皇陛下より御下賜金ほか

越之後州山之坊村願正寺一卷（七通）

①高田本山專修寺寺中末寺四名連署状 一通

折紙 縦三五・六cm×横四九・三cm

（年未詳）六月六日 蓮藏院・智光院・玉保院・慈智院↓山之

坊願正寺

②指上申一札事 一通

卷紙 縦二九・五cm×横四二・二cm

宝永二年（一七〇六）八月一日 越後国頸城郡山之坊村願正寺

専通↓法林寺・真覺寺

③乍恐奉願口上書之事 一通

卷紙 縦三一・三cm×横一二九・〇cm

宝永三年（一七〇七）二月 上越後国頸城郡西浜糸魚川河西前

之内願正寺住寺専通↓法林寺・真覺寺

④乍恐奉願口上書之事 一通

卷紙 縦三一・〇cm×横六三・五cm

戊三月六日 願正寺↓法林寺・真覺寺

⑤乍恐申上ル旦那共口上書之事 一通

卷紙 縦三二・〇cm×横八四・〇cm

糸魚川山之坊村旦那六名連署↓法林寺・真覺寺

⑥誠照寺内南光寺・西福寺連署状（控） 一通

切紙 縦二六・七cm×横三七・二cm

（年未詳）八月二日 越前今立郡佐波江上野山誠照寺内 南光

寺法橋・西福寺法橋↓平岡十左衛門様御役所

⑦願正寺支配所代官交代控 一通

切紙 縦二九・五cm×横四二・〇cm

10 大野郡熊河村養久寺（養休寺）掛所御免関係書類 三点

①熊河村養休寺掛所御免之留 一冊

仮綴（墨付五枚）

②養久寺境内地・持高等覚 一通

卷紙 寛延三年（一七五〇）八月日 養久寺↓御両座様

包紙上書「上 養久寺」

③指上申一札之事 一通

卷紙 享保十五年（一七三〇）三月日 熊河村喜左衛門・喜兵

衛他↓御役者中 包紙上書「上 養休寺同行一札也」

11 諸文書 一九点

①奉願口上之覚

一紙 縦二七・〇cm×横三七・三cm

慶応三年（一八六七）十一月 西福寺（黒印）↓御本山御役所

包紙上書「上 登高座寺格昇進願 西福寺」

②奉願上候口上覚

一紙 縦二六・五cm×横三七・七cm

慶応三年（一八六七）十一月日

南光寺（黒印）↓御本山御役所

包紙上書「上 登高座寺格昇進願 南光寺」

③差上申一札事

一紙 縦二四・九cm×横三二・四cm

明治五年（一八七二）三月 圓正寺（黒印）↓御本山御役所

④乍恐以書附奉歎願上候

卷紙 縦三〇・〇cm×横（長尺）

万延元年（一八六〇）十一月 南光寺同行惣代三十一名連署↓

御本殿御役所 包紙上書「上 南光寺檀家中」

※南光寺住持心得違不屈

⑤乍恐以口上書御託奉申上候

卷紙 縦三〇・〇cm×横（長尺）

万延元年（一八六〇）十一月 西徳寺量証以下五か寺連署↓御

本殿御役者中 包紙上書「上 院内五ヶ寺」

※南光寺住持心得違不屈

⑥書附を以御届奉申上候

一紙 縦二六・二cm×横三七・五cm

文政六年（一八二三）三月

小梅村誠徳寺（黒印）↓御本山御役所

包紙上書「上 誠徳寺／東侯彦次兵衛十五ヶ年間宗印御預旦一

件」（⑦も同封）

⑦御届申口上之覚（控）

一紙 縦二六・二cm×横三二・八cm

文政六年（一八二三）四月 誠照寺↓寺社御役所

⑧差上申一札之事

一紙 縦二五・〇cm×横三二・五cm

明治五年（一八七二）三月

上鯖江村西正寺（黒印）↓御本山御役所

包紙上書「上 上鯖江郷／西正寺」

※檀家数修正申告

⑨差入申後証之事

一紙 縦三〇・二cm×横三八・二cm

明治七年（一八七四）三月

今立郡新出村誓願寺・同行総代三名連署↓鯖江御本山誠照寺

包紙上書「証文 今立郡新出村／誓願寺」（⑩も同封）

⑩差入申証書之事

野紙 縦二四・五cm×横三三・〇cm

明治七年（一八七四）三月日

同行惣代四名連署↓覚圓寺

⑪乍恐以口上書奉願上候

一紙 縦二六・七cm×横三八・六cm

明治元年極月日 上サハエ西正寺(黒印) ↓御本山様御役所
包紙上書「御本山様／御役所 上サハエ／西正寺」

⑫差上申一札之事

継紙 縦二八・〇cm×横五九・五cm

書出「一、先年拙僧愚昧不料簡…」(南光寺住持か)

⑬口上覚(控)

継紙 縦三二・六cm×横八五・五cm

元禄八年(一六九五)極月 誠照寺 ↓土岐伊予守殿御奉行所

※阿和田谷助生田村下道場焼失本尊の件

⑭以添書奉願上候

一紙 縦二五・七cm×横四三・六cm

文久四年(一八六四)三月

南光寺(黒印)・同寺檀家惣代三名連署 ↓御本山御役所

※拙寺舎弟後住得度の件

⑮口上書を以奉申上候

一紙 縦二九・三cm×横三〇・五cm

天保三年(一八三二)九月 専念寺(黒印) ↓御本山御役所

書出「此度二條殿御紋所御改メ被仰出候ニ付…」

⑯乍恐口上書を以奉願候

継紙 縦二六・三cm×横(長尺…四紙ハガレ・後欠)

丑四月廿八日 領家村彦十郎以下十三名以上連署(後欠)

書出「一、当寺無住ニ付惣同行相談之上…」

⑰指上申御請書之事

継紙 縦二六・二cm×横一〇九・二cm

宝曆八年(一七五八)八月

憲応(黒印)・南光寺(黒印)・惣代四名連署 ↓御両寺様

書出「一、南光寺後住憲応儀…」

⑱乍恐御届申上候口上書之覚

一紙 縦二六・七cm×横三五・三cm

文政九年(一八二六)八月

海浦導善寺(黒印)・宿浦西教寺(黒印) ↓御本山御役所

※導善寺へ西教寺弟養子…病身・離縁

⑲乍恐口上書を以奉願上候

一紙 縦三一・〇cm×横四二・五cm

文化十四年(一八一七)正月

上鯖江西正寺(黒印) ↓御本山御役所

※私方次男寺内願生寺へ養子

⑳奉差上底意書

一紙 縦二五・七cm×横四三・四cm

慶応四年(一八六八)三月 西正寺 ↓御本山御役所

書出「今般王政御一新ニ付…」

㉑乍恐以口上書奉歎願候

繼紙 縦二七・〇 cm×横一三五・八 cm

卯七月 御直参同行江戸屋清蔵以下三名連署↓御本山御役所

12 儉約通達状 一通

切紙 縦一八・二 cm×横五六・九 cm

(明治元年・一八六八)十一月廿九日

二條殿御内藤木民部権少輔↓誠照寺御坊西福寺

13 連枝得度決定書 全三枚

封筒上書「二條御法主様御手許へ御書附入

①連枝得度ニ付協議決定書(連枝金寿磨)

罫紙 縦二八・〇 cm×横四〇・八 cm

明治四十二年(一九〇九)一月

二條秀源・秀暁・大谷光演

②連枝得度ニ付協議決定書(連枝金寿磨)

罫紙 縦二八・〇 cm×横四〇・八 cm

明治四十二年(一九〇九)一月

二條秀源・秀暁・大谷勝縁

③得度決定書(二條満寿磨)

罫紙 縦二八・〇 cm×横二〇・二 cm

大正十年(一九二二)二月廿七日

二條秀源・秀暁・大谷勝縁

14 梵鐘に関する書類 二袋

茶封筒「梵鐘に関する資料在中」(二通)

①大谷隆義書状(便せん一枚)

昭和十七年(一九四二)十二月七日 国宝金屬修理師大谷隆義

②大谷隆義書状(便せん二枚)

昭和十七年(一九四二)十二月七日 大谷相模掾鑄金所

茶封筒「古文書其ノ他 梵鐘ニ関スル資料在中」

③本山誠照寺梵鐘ニ関スル参考資料写(便せん一枚)

大谷隆義と竹原吉助の名刺を同封

※宝暦六年鑄造の誠照寺梵鐘についての問い合わせ

15 奉納状 四通

①忠霊堂本尊光華阿弥陀如来尊像

檀紙(二枚重ね) 縦四七・一 cm×横六〇・〇 cm

昭和十六年(一九四二)十二月六日

②嶺北忠霊塔本尊阿弥陀如来尊像

檀紙(二枚重ね) 縦三九・五 cm×横五三・〇 cm

昭和三十八年(一九六三)七月十四日

③御影堂内陣天蓋

檀紙(二枚重ね) 縦三九・五 cm×横五三・〇 cm

昭和五十五年(一九八〇)十一月一日

④本堂聖徳太子厨子前釣灯籠

檀紙(二枚重ね) 縦三九・五 cm×横五三・〇 cm

昭和五十七年（一九八二）九月吉日

16 養休寺創立・歴代に付書付 一枚

一紙 縦一八・四cm×横二四・四cm

大正年間以降

17 包紙入聖徳太子絵像（推定） 一枚

包紙（縦二八・一cm×横一九・三cm）書付「越前符中之内妙法寺

村松目／作者源古（花押）／さはへ村／御太子様／奉願人／誠照

寺／慶長拾二年ひつしとし／八月十四日」（写）

※開封不能

（四）別置史料

○別置1 詠歌「花」（二条斎敬直筆） 一幅 紙本墨書

縦三七・〇cm×横五三・五cm

二条斎敬（にじょう なりゆき）。文化十三年（一一八六）〜明

治十一年（一一七八）。日本史上、最後の関白として知られる。

誠照寺第二十六世秀源（西園寺寛季男）が斎敬の猶子となり、九

才で誠照寺に入寺。

○別置2 手引如来縁起 一卷 継紙 縦二〇・九cm×横一三六・〇cm

木箱上書「手引如来縁起 二〇」 内題「手引阿弥陀之縁起」

「慶長二十乙卯歳五月十五日 増上寺中興普光観智国師 源誉」

「浄光院当住沙門大誉」（卷末）

○別置3 本尊縁起上下 二卷 継紙

（上巻）縦三一・七cm×横一二三・六cm

（下巻）縦三一・七cm×横四〇・九cm

木箱上書「本尊縁起 二巻」 内題「略縁起上（下）ノ巻」

※内容は三国伝来の手引阿弥陀如来について

○別置4 十体和歌 一卷 継紙 縦三四・八cm×横四四八・二cm

木箱上書・外題ともに「十体和歌」 本紙は打曇紙。

添書：折紙（縦三三・三cm×横四五・八cm）、包紙上書「筆者并

外題目録」、内題「巻物筆者」、十名の筆者と歌題（幽玄・一条院

宮尊貴親王ほか）

○別置5（風呂敷）

1 御文章（秀誠判） 一冊 縦帳

縦二六・八cm×横二一・五cm

2 御寺法書 一冊 縦帳

縦二六・一cm×横一八・四cm

嘉永七年（一八五四）閏七月 西福寺以下五一か寺連署

※寺法箇条書の後、「得度御礼」「継目御礼録」「衣体御礼」「申物

御礼」が書き上げられている。

3 寺法定書 一冊 縦帳

縦二八・五cm×横二七・九cm

外題「定」 書出「被仰渡事」

- 4 書簡写(明王院・誠照寺往復書簡) 一冊 豎帳
 縦二七・九cm×横一九・七cm
 ※誠照寺役寺西福寺による寺法改め、新法を立てることについて、
 明王院尚海と誠照寺秀量が相互に送った書簡の写し
- 5 西福寺・南光寺御札一件 一冊 豎帳
 縦二七・八cm×横一九・六cm
 書出「安政三丙午大開帳…」
- 6 西福寺・南光寺御札一件 一冊 豎帳
 縦二七・九cm×横二〇・〇cm
 書出「四月十二日 南光寺同行惣代…」
- 7 宗門請状送証文覚 一冊 豎帳
 書出「宗門請状之事」 江戸時代(安永年間)
- 8 如來様御名号大小惣留帳 一冊 豎帳
 縦二六・四cm×横一九・〇cm
 元禄七年(一六九四)正月
- 9 本山誠照寺(中興秀誠上人/秀量上人)小伝 一冊
 刷物 縦一九・二cm×横一二・七cm
 昭和十五年(一九四〇) 波多野曉浄
- 10 靈像略縁起 一冊 豎帳
 縦二八・〇cm×横一九・八cm
 外題朱筆 書出「閻浮檀金手引阿弥陀仏像記」
- 11 御寺法書 一冊 豎帳
 縦二七・一cm×横一九・一cm
 嘉永七年(一八五四)六月 南光寺・西福寺
 外題「御寺法書」 書出「定」
- 12 御寺法書 一冊 豎帳
 縦二八・一cm×横二〇・四cm
 外題「御寺法書」 書出「條々」
 天明元年(一七八一)
- 13 誠照寺歴代記 一冊 豎帳
 縦二六・一cm×横一九・〇cm
 明治四年(一八七二)六月
 編集役 本正寺真容 法林寺了諦
- 14 御朱印御改御用日記 一冊 豎帳
 縦二六・一cm×横一八・八cm
 安永六年(一七七七)九月
- 15 御法度触留帳 一冊 豎帳
 縦二五・九cm×横一九・〇cm
 元禄十五年(一七〇二)十二月十一日
- 16 誠照寺由緒 一冊 豎帳
 縦二七・三cm×横二〇・〇cm

外題「当寺由緒」 奥「右ハ秀憲上人ノ代寛保元年ノモノ」

17 地方官ノ分綴(府県ノ分) 一冊 仮綴

縦二八・八 cm×横二一・四 cm

※教導一般は比叡山所轄にしてほしいという願書、誠照寺閻浮檀

金手引阿弥陀如来開帳願いなど

18 上野山誠照寺抱分帛帳 一冊 豎帳

縦二七・六 cm×横一九・八 cm

19 得度・継目・階老御札録帳 一冊 豎帳

縦二六・七 cm×横一九・一 cm

天保十三年(一八四二)二月

20 御法度并五人組帳 一冊 豎帳

縦三〇・一 cm×横二一・一 cm

宝永三年(一七〇六)十二月

西福寺等六か寺・泰応等七僧稲田五兵衛当三六名連署

21 書簡留帳 一冊 豎帳

縦三二・五 cm×横二二・一 cm

※元禄十三年(一七〇〇)ころ、秀如の権僧正任官の願い出に關

する書簡留

22 御寺法之掟 一冊 豎帳

縦二九・五 cm×横二一・五 cm

天和三年(一六八三)五月十九日

寺内西福寺等二か寺連署

「申物定」「位階式」「法座掟之事」

23 秀存権僧正任官につき留帳 一冊 豎帳

縦二七・七 cm×横一九・八 cm

24 御案紙留 一冊 豎帳

縦二九・七 cm×横二一・四 cm

天和二年(一六八二)七月

※能登国珠洲郡小路村高福寺が西本願寺末から誠照寺末へ天バす

る際の届け出など

25 来由記写 一冊 豎帳

縦二七・二 cm×横一九・五 cm

書出「一、当寺九代ノ後胤秀榮上人諱空如……」

※第九世秀榮ノ第十三世秀恵の事績を寛永十年(一六三三)十一

月二十五日に十四世秀山が記し置いたものの写し

○別置6(茶色函)

1 法眼申請状(秀源)

包紙上書「越前国鯖江ノ誠照寺十七歳ノ秀源」

包紙寸法縦三二・九 cm×横四四・七 cm

①法眼請書 一通

切紙 縦一九・八 cm×横五二・九 cm

庚午八月五日 越前国佐波江ノ誠照寺秀源(黒印)

中御門大納言

② 覚 一通

継紙 縦一五・八 cm×五七・四 cm

六月廿日 本正寺

③ 仏光寺御門主法眼勅許御礼物

継紙 縦一六・一 cm×横六二・二 cm

④ 秀源法眼申請書書式下書

切紙 縦一六・二 cm×横九七・六 cm

⑤ 法眼申請状(写) 一通

折紙 縦三九・六 cm×横五二・六 cm

「申／法眼／秀源」

2 太子七高僧之御忌日 一冊

刷物 縦一八・一 cm×横一二・八 cm

元禄六年(一六九三)

○別置7「各御消息御書在中」

1 消息第十三号「堅忍持久終始奉公章」(刷物) 一枚

明治三十七年(一九〇四)十月十五日 本山寺務所

書出「本月十日内閣総理大臣ヲ御前ニ召サセラレ…」

2 教校設立御書 一通

明治十九年(一八八六)八月十二日 「秀源ノ之印」(朱印)

書出「ソモノ運ハ澆季ト降り世ハ…」

3 消息案 七通

① 第一号「憶念称名鑛業勉勵章」

明治二十年(一八八七)五月十六日／釈秀源花押

飛州鑛山衆中／右講頭(旧大野郡小澤之人)坂東喜八郎へ付与

② 第二号「法義相統章又ハ報恩章」

明治二十年(一八八七)十月二十八日／釈秀源花押

専光寺住職／安川栄明へ

③ 第三号「人界受生大慶章」

明治廿二年(一八八九)七月廿八日／釈秀源花押

濃州末門中へ

④ 第五号「獲信見敬章」

明治廿六年(一八九三)十月三日／秀源朱印

越前国信敬講中江／(小泉了諦へ付与)

⑤ 第八号「行道進徳章」

明治廿九年(一八九六)六月十六日／釈秀逸源

池田郷／潤徳教会々員中

⑥ 第九号「災難消滅信順奉行章」

明治廿九年(一八八六)九月一日／釈秀源花押

濃州末門徒中江

⑦ 第十号「災難消滅信順奉行章」

明治廿九年(一八九六)十月廿二日

池田末門徒中江

4 第十四号「直論本尊々信章」

明治四十一年（一九〇八）一月廿八日「秀源／之印」（朱印）

5 宗祖大師六百五十年御満足御書

明治四十四年（一九一一）六月二十九日

积秀源「积／秀源」（朱印）

包紙上書「宗祖大師／六百五十年」御満足御書

6 宗祖大師六百五十年御待受御書

明治四十四年（一九一一）六月二十八日

积秀源「积／秀源」（朱印）

7 本山回祿後信心勸発御書

文久二年（一八六二）霜月廿一日

积秀量（花押）

8 第四号消息「持法会設置章」

明治二十三年（一八九〇）七月四日

「秀源／之印」（朱印）

9 消息（災害見舞） 二通

① 水害見舞消息

明治二十九年（一八九六）十月廿二日

「法主／秀源」（朱印）

池田末門中江

書出「其地方本年ハ非常ノ水害ヲ蒙リシコト」

② 災害見舞消息

明治廿九年（一八九六）九月一日

积秀源「法主／秀源」（朱印）

濃州末門中江

書出「静ニ惟ルニソノ地方ハ近来災難」

10 消息案（真俗二諦）

明治廿一年（一八八八）八月十一日

积秀源（花押）

濃州門徒中へ

11 消息案 三通

① 第六号消息「臣民盡忠章」

明治二十七年（一八九四）八月十八日

「秀源／之印」（朱印）

② 第十一号消息「誠心一貫章」

明治三十一年（一八九八）一月廿八日

誠照寺法主秀源

輜重兵第九大隊／第一中隊第四班／関 政井へ

③ 第十二号消息「義勇奉公章」

明治参十七年（一九〇四）二月十一日

积秀源「积／秀源」（朱印）

○別置8 (図面・包紙一括)

- 1 御宸殿設計図 五枚
明治三十九年(一九〇六)
 - ①新御殿休息殿建築平面略図附属設計表
 - ②某御殿絵図
 - ③御末寺僧侶寄宿所之図
 - ④御末寺部屋建物設計書
 - ⑤設計表
- 2 本山官有地境内并境外所有地之図 一枚
明治二十七年(一八九四)
大正四く六年以後の売地について貼付図あり
- 3 御影堂・本堂図面平面 一枚
- 4 廿年度・三十三年度・三十六年度の坪数記録図面 一枚
- 5 宅地明細簿ヨリ抜書(土地計測) 一枚
明治九年(一八七六)
紙背「积即是「百ヶ日供養」
- 6 某所地積図 一枚
- 7 鐘樓図面 一枚
- 8 長泉寺卅六字ソウリ 一枚
- 9 誠照寺境内図 一枚
明治九年(一八七六)五月二十四日
- 10 測量人田中九之七ほか二名 西サバエ村惣代加藤新十郎ほか十名
代理本正寺
上野土地寄進明細書 一枚
湯浅徳太郎↓御表御殿
- 11 御貸地証文下書 一枚
徳林寺・真覚寺・本正寺↓中嶋大吉殿
- 12 西鯖江各字図面 三枚
①西鯖江第拾五号上野図面
②西鯖江二十三号西久保図面
③西鯖江十三号上平林ほか図面
- 13 (本山) 対面所宸殿庭図面 一枚
- 14 桑原重蔵ヨリ永田録事補ヲ経テ納附ノモノ(図面) 一枚
大正元年(一九一三)十月廿五日
- 15 桑原土蔵・伊藤土蔵図面 一枚
昭和八年(一九三三)八月八日
- 16 永田正教・稲田晃盛・長田智龍・藤井光照・刑部教恵・本多徳彰
北山持地図面(長泉寺村) 一枚
明治十七年(一八八四)六月廿日
- 17 西鯖江村帳簿(図面) 一枚
- 18 本山見取図 一枚
- 19 アメ屋宅横地積図 一枚

- 大正元年（一九一二）十月廿四日
- 20 鯖江村近全図 一枚
- 21 本山周辺地図（境内・朱印地） 一枚
- 22 境内誠照寺持地積図 一枚
大正元年（一九一二）十月
- 23 地積図（北陸街道側本山所有地） 一枚
- 24 五拾四字上西山地積図 一枚
- 25 本山境内配置図（今立郡鯖江町下深江） 一枚
- 26 某所設計図面 一枚
- 27 誠照寺墓碑配置図（百分の一） 一枚
- 28 御墓所改良設計図 一枚
昭和二十五年（一九五〇）五月
- 29 光華殿・宸殿平面図 一枚
- 30 敦賀県下第九大区三小区越前国今立郡鯖江下深江町誠照寺一分二間縮図 一枚
- 31 越前国今立郡鯖江町字限地籍絵図 一枚
- 32 本山所有境内地並境外地地籍図 一枚
昭和二十九年（一九五四）
- 33 福井県今立郡鯖江町上野山誠照寺位置図 一枚
- 34 某所地積図（瀧波拝借地ほか） 一枚
大正年間 「本山／誠照寺」（朱印）
- 35 当町役場ヨリ写シクル（二分二間ノ図） 一枚
大正元年（一九一二）十月十五日
- 36 既存建物平面図（春光殿） 一枚
昭和四十六年（一九七二）三月
- 37 本山境内并境外所有地之図 一枚
- 38 某所地積図 一枚
- 39 アメ屋宅横土地地積図 一枚
- 40 御本堂前門横地積図 一枚
- 41 四足門・経蔵ほか誠照寺境内平面図（表・裏） 一枚
- 42 誠照寺墓地図 一枚
- 43 字上野一ノ一及二之七十七坪御受入（図面） 一枚
昭和十八年（一九四三）十一月
- 44 鯖江町西鯖江地籍内所有土地配置図 一枚
- 45 墓地拡張設計図 一枚
昭和四十年（一九六五）十月十日
- 46 御本廟拜殿見積書 六枚
昭和四十八年（一九七三）三月末建立
- 47 長生殿附属炊事場湯殿トイレット建設設計図 一枚
- 48 本山境内境実測図 一枚
- 49 真覚寺拝借地図等図面 六枚（仮綴）
如実院執事調査

- 50 現家宅設計図 三枚
- 51 誠照寺所有舟津村西鯖江并二鯖江町地籍絵図 一枚
明治二十七年（一八九四）写（もと明治九年改正図）
- 52 地所永代借受地ニ付御図面記載シ約定為配換証之事 一枚
明治十五年（一八八二）十二月十三日
- 53 誠照寺境内平面図 一枚
大正六年（一九一七）ころ計画
- 54 聚楽亭設計に関する意見控 一枚
- 55 本山境内地之千二百参拾九坪（図面） 一枚
明治九年（一八七六）測量
- 56 「車道場」地周辺絵図 一枚
- 57 門主宅地図 一枚
- 58 本山誠照寺本標柱設計画 二枚
- 59 大御遠忌記念改造改築諸設計計画図 袋入二〇点
- 60 本山誠照寺大門北側灰筋塀改築設計図 一枚
昭和二十六年（一九五一）三月
- 61 本山台所食堂セツト見積書
- 62 本山周辺地籍図（本山地形） 一枚
茶封筒入り（他にメモ六枚同封）
- 63 誠照寺管長室便所改良工事 一枚
- 64 誠照寺消火栓設置関係書類 三枚
- 65 某所石板地積図 一枚

執筆者紹介

- 小山正文（研究顧問）
武田龍（客員所員）
脊古真哉（客員所員・同朋大学講師）
市野智行（特別研究員）
黒田浩明（客員研究員）
小島惠昭（所長・同朋大学大学院教授）
村上亘（同朋大学大学院博士後期課程満期退学）
川村伸寛（客員研究員）
渡辺信和（室長・同朋大学講師）
青木馨（客員所員・同朋大学講師）
安藤弥（所員・同朋大学准教授）
松金直美（客員研究員・大谷大学助教）
飯田真宏（特別研究員）
藤村潔（客員研究員・同朋大学講師）
ギヤナ・ラタナ（客員所員）

同朋大学佛教文化研究所紀要 第三十号

平成二十三年三月二十五日 印刷

平成二十三年三月三十一日 発行

編集者 同朋大学佛教文化研究所
名古屋市中村区稲葉地町七―一

所長 小島惠昭

電話 ○五二―四一―一三三七三

発行所 同朋大学佛教文化研究所
印刷所 株式会社 一誠社